

小嶋英夫先生のご退職に当たって

金森 強

小嶋英夫先生は、2015年4月から7年にわたり本学における研究、教育、校務にご尽力をいただきました。2022年3月をもって定年退職されることとなりました。ご健康で定年を迎えられること、心よりお喜びを申し上げます。

小嶋先生が本学に着任された翌年には、教育学部に新たに英語専修が置かれることになっていました。英語専修のカリキュラム作成から新たに採用される教員を迎えるための諸手続き等を含め、設置準備のための多くの仕事を手掛けていただきました。そのお陰で、英語専修は2016年、スムーズにスタートを切ることが可能となりました。

2016年4月から2019年3月まで、英語専修主任として、生まれわたの英語専修を牽引していただきました。専修の教育内容充実のために、様々な取り組みに着手して頂き、時間割上どうしても十分に確保することのできない英語学習時間を補うためのWBT教材を用いた自主学習プログラムの構築とその実施、外部英語運用能力試験を用いたカリキュラム改訂のためのデータ収集、また、直接体験を通じた学びによる異文化コミュニケーション能力育成を目指した海外短期研修プログラム（英国ウォーリック大学短期研修プログラム）の立ち上げ等、英語専修が目指す理想の教育プログラムの土台部分の構築に多大なる貢献をしていただきました。

特に、英国ウォーリック大学における短期研修プログラムには積極的に関わっていただき、提携校との交渉や情報交換、MOUの締結、参加学生の募集・引率まで、ほとんど全てをお一人でご担当され、プログラムを実現させて下さいました。英語専修学生向けのプログラムとしてスタートした研修ではありましたが、後に教育学部のプログラムとして実施できるまでに発展することができたのも小嶋先生の本プログラムの企画・運営へのゆるぎのない献身の成果であると言えます。

小嶋先生は、主に、英語教育分野に関わる研究と教育に従事してこられました。研究業績につきましては、次ページ以降において詳細に示されております。多岐にわたる研究テーマから、小嶋先生の幅広い分野への興味と学際的な広がりをもった研究の視点が垣間見られるところです。特に、自律的な学習者の育成に関する研究における先駆的な取り組みをされた研究者として広く知られており、学生達の間でもLearner Autonomyと言えば「小嶋先生」と言われるまでに浸透しているくらいです。

立ち上がったばかりの英語専修、学内業務をこなすだけでも大変であったはずですが、科学研究費補助研究や学内の共同研究費課題研究にも積極的に取り組まれており、学会活動や現場における英語教育フィールド調査等、日本、世界を駆けめぐりながら研究活動に従事されるその姿勢と熱意から我々も多くのことを学ばせて頂きました。

今後とも、本学との関係を維持していただき、英語専修を見守っていただきたく思っております。よろしく、お願い申し上げます。

先生におかれましてはご健康に留意されていっそうご活躍されますことを念じつつ、お送りすることばとさせていただきます。

(金森 強 文教大学教育学部英語専修主任)

